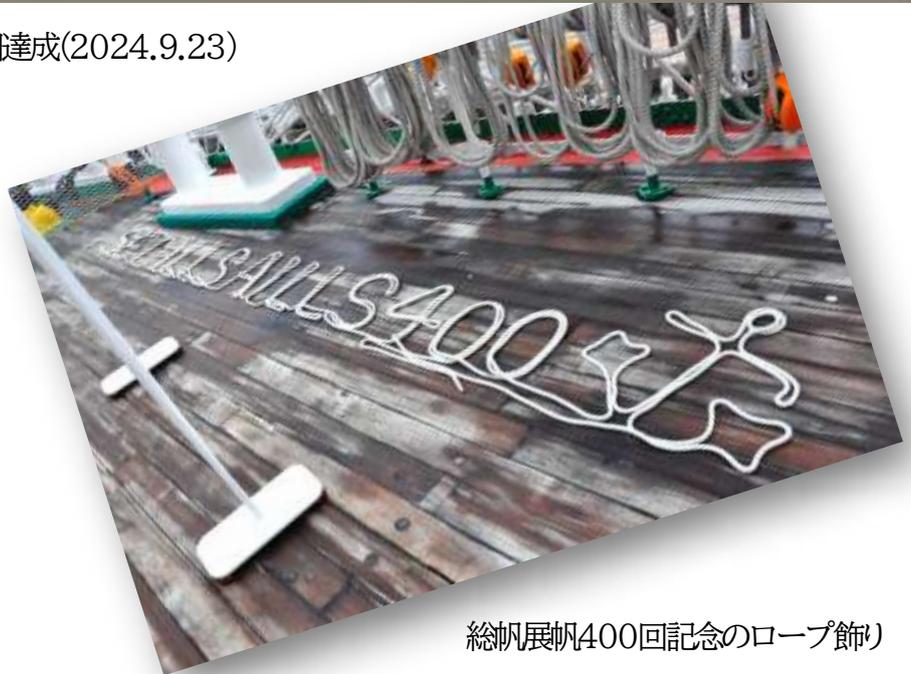


令和5年度事業報告書



帆船日本丸 総帆展帆400回達成(2024.9.23)



総帆展帆400回記念のロープ飾り

公益財団法人 帆船日本丸記念財団

目 次

1	令和5年（2023年）度事業概観等	1
2	帆船日本丸事業	3
3	横浜みなと博物館事業	7
4	みなとの賑わい創出事業	11
5	緑地管理・活用及び研修施設事業	13
6	集客増に向けた主な重点取組	15
7	組織運営の質的向上に向けた取組	17
8	令和5年（2023年）度事業一覧表	19

1 令和5年（2023年）度事業概観等

(1) 施設概要

- ア 施設名
日本丸メモリアルパーク
- イ 所在地
横浜市西区みなとみらい二丁目1番1号
- ウ 対象施設等
 - (ア) 帆船日本丸（国指定重要文化財）
総トン数 2,278t
 - (イ) 横浜みなと博物館
7,155.31 m²
 - (ウ) 研修施設
873 m²
 - (エ) 緑地
38,778 m²
 - (オ) その他
タワー4棟

(2) 施設管理者

- ア 受託団体
公益財団法人帆船日本丸記念財団
- イ 代表者
理事長 伊藤 友道
- ウ 所在地
横浜市西区みなとみらい二丁目1番1号
- エ 財団設立
昭和59年（1984年）10月1日
※平成23年（2011年）6月1日 公益財団法人へ移行
- オ 指定管理期間（第4期）
令和4年（2022年）4月1日から令和14年（2032年）3月31日まで

(3) 事業概観

令和5年（2023年）度は、第4期指定管理の2年目となりました。

帆船日本丸は、9月23日、ボランティアの皆様のご協力により400回目の総帆展帆を実施することができました。このお祝いとして、10月9日には、横浜市長をはじめ多数のご来賓をお招きし、記念式典を開催しました。



展帆ボランティアの活動風景

全ての帆を張る総帆展帆は、日本丸が公開を開始した昭和60年（1985年）に第1回目を実施されましたが、引き続きボランティアの皆様をはじめ関係各位のご協力により「船齢100歳」に向け継続してまいります。

横浜みなと博物館は、リニューアル後、初めて1年間継続して運営しました。常設展示を良好な状態でご見学いただけるよう努めるとともに、特別展示事業や教育普及事業などをボランティアの皆様のご協力もいただいて拡大し、海・港・船に親しむ多彩な活動を行いました。



展示案内ボランティア
（「空から見た横浜港」）

【年次計画の目標】

目標項目	5年度目標値	5年度実績 (4年度実績)	対4年度比
帆船日本丸及び横浜みなと博物館の有料入場者数	124,000人	87,917人 (79,251人)	110.9%
日本丸メモリアルパーク利用者数	750,000人	448,108人 (452,607人)	99.0%
お客様満足度	97%以上	99.1% (95.1%)	4ポイント増
効率的な財政運営・人材育成及び風通しの良い職場作り	推進	推進	推進

(4) 安全対策

日本丸メモリアルパークを訪れる全てのお客様が安心して過ごせるよう、パーク内の巡回パトロールを24時間行いました。自然災害への備えについては、防災設備の確認や止水板設置訓練など、お客様の安全を確保するための職員訓練を実施しました。新型コロナウイルス感染症対策については、施設入口への消毒薬の設置を継続し、使用を希望するお客様に配慮しました。

2 帆船日本丸事業

帆船日本丸は船齢94歳となりました。国指定重要文化財として評価された、現在希少な存在となっているリベット構造と残存する建造時の鋼材や木質及び戦後復旧された帆装艀装等を永く保存するため、職員による船体の整備、美観保持作業等を日々継続しました。

保存事業においては、著しい経年劣化が見られた士官居住区エントランス側壁（基部）切替え及び帆走時に使用する手動操舵装置を覆うフード周りの木甲板張替え工事を実施しました。これらの工事箇所は、歴史的価値の高いものであることから、横浜市及び文化庁と事前に協議した上で国庫補助事業による横浜市発注工事により修繕を行いました。

一方、同フード側壁基部には著しい腐食がみられたことから、広く一般にクラウドファンディングで寄附金を募り、同寄附金によりフード側壁（基部）の切替えを行うことができました。

公開事業においては、帆船日本丸を活用した参加・体験型事業の講座「日本丸の舵輪を回してみよう」及び「日本丸の帆（セイル）を畳んでみよう」を実施しました。さらに、コロナ禍で休止を余儀なくされていたガイドボランティアによる船内案内を4月から再開しました。

青少年錬成事業においては、通常の海洋教室に加え、出張海洋教室として、西区民まつりに参加しました。

これらに加え、子ども向け船の講座「船（帆船）はどうして進むのだろうか」等の開催や、船内展示の定期的な内容更新（写真パネル等の更新）を行い、リピーターの確保に努めました。



帆船日本丸ガイドボランティア活動再開



出張海洋教室(横浜市西区民まつり)

(1) 保存事業

国指定重要文化財帆船日本丸の美しい姿を末永く保存するため、次の整備を実施しました。

ア 日常保守点検

- ・乗船者見学通路・公開区域の安全点検、整備、美観保持
- ・船体鋼材の発錆部整備及び船内真ちゅう磨き
- ・マスト、ヤードその他帆装艤装の点検・整備
- ・船体木部の点検・整備

イ 災害防止

- ・乗船者及び甲板整備協力者の安全確保
- ・船内防災センターにおける火災、浸水、地震及び不法侵入者等に備えた24時間体制の集中監視

ウ 年次船体整備点検・整備

- ・定期検査受検工事
- ・士官居住区エントランス側壁基部（両舷）切替え
- ・士官居住区エントランス階段リノリウム（床面シート）張替え
- ・フード周り木甲板張替え
- ・フード側壁基部切替え（クラウドファンディングによる寄附金を充当）
- ・第二甲板船首部便所下甲板補修
- ・エアコン用清水冷却器出口及び入口海水管交換（各1）
- ・旧排水接続管（レデューサー）交換
- ・船体外板水線部全周塗装（本船作業）
- ・木製ヤード部分塗装（本船作業）
- ・フォアマスト・各ステイ（前方支持索）ター塗装（本船作業）



施工が完了したフード周り木甲板張替えとフード側壁基部切り替え



著しい腐食が見られたフード側壁基部



フード側壁基部切替え工事



腐食した木甲板の撤去



旧木甲板撤去後に整備された鋼製甲板



破孔が見られた士官居住区エントランス側壁基部



切り替えられた士官居住区エントランス側壁基部



船体外板水線部塗装



フォアマスト・各スチ(前方支持索)外塗装

(2) 公開事業

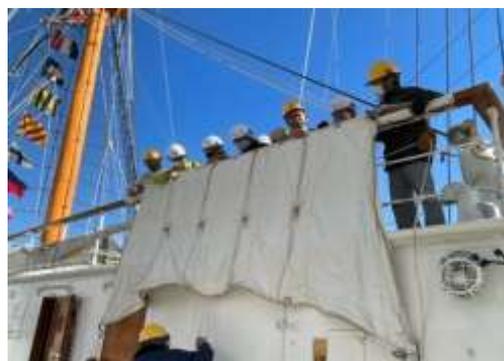
帆船日本丸船内を年間284日公開しました。展帆を12回、満船飾を13回実施し(11月3日は両方実施)、普段とは異なる帆船日本丸の美しい姿をご覧いただきました。

夏休み期間中には、「子ども向け船の講座」や「ロープ作製体験」及び親子で体験する宿泊海洋教室を実施しました。帆船日本丸の進水記念日である1月27日には、大人向け船の講座として、「日本丸の帆(セイル)を畳んでみよう」を開催しました。同講座では、参加者がミニセイルを使用して、展帆の際に行われるマスト上での作業を体験することができました。

これらの活動を通して市民の皆様には帆船日本丸から得られる知識や経験を共有していただき、帆船日本丸の100年保存に対する理解を得られるように努めました。



子ども向け船の講座
「船(帆船)はどうして進むのだろう」



大人向け船の講座
「日本丸の帆(セイル)を畳んでみよう」

(3) 青少年錬成事業

帆船日本丸における錬成事業(海洋教室等)は、訓練施設において様々な体験型訓練と団体生活を行うことにより、時間厳守、公德心、体力・精神力の向上、注意力、友愛、協調性、責任感及び積極性を習得してもらうとともに、海・港・船に関する理解と知識の増進を図ることを目的としています。

令和5年(2023年)度は12回の海洋教室(半日・1日・宿泊コース)を実施し、海事思想の普及を図りました。実施に当たっては、実施団体と事前に訓練プログラムを調整し、可能な限り参加者の希望に沿ったプログラムを実施できるよう努めました。その他、35年以上に渡り実施されてきた「よこはまこどもマリンスクール」の事業を支援しました。



海洋教室(甲板磨き)



よこはまこどもマリンスクール閉校式

3 横浜みなと博物館事業

春に新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、徐々に博物館の活動も活発になりました。

展示案内、教育活動の両ボランティア活動を一部再開し、展示のご案内やおりがみ教室などでお客様に博物館をより楽しんでいただけるようになりました。

5周年を迎えた柳原良平アートミュージアムでは、記念の特集展示を実施、修復した水彩画1点を初公開しました。

特別展示事業では、関東大震災100年の節目に企画展を開催しました。



教育活動ボランティアによる
おりがみ教室



5周年記念特集展示「花と木と船と」



企画展「関東大震災100年 船と港から
見た関東大震災」展示風景

教育普及事業は昨年から実施している博物館クイズラリーを継続、企画展関連事業、学芸員による展示解説などを行いました。その他、博物館内の展示収蔵環境保全業務を本格的に実施、また横浜市が大黒ふ頭に設置した収蔵施設に収めた資料等の点検を定期的に行い、資料の保全に努めました。

(1) 常設展示事業

博物館のリニューアルに伴い導入した最新の映像展示等を常に良好な状態で管理し、多くのお客様に楽しく利用していただけるよう、日常の保守点検やトラブル時の速やかな対応に努めました。

コロナ禍で休止していた展示案内ボランティアの活動は4月から再開し、常設展示のご案内を行いました。

6月2日の横浜開港記念日から、バーチャルリアリティシアター（VRシアター）「ヨコハマクロニクル～SINCE1854～」と大型映像展示「横浜開港」の2本の新プログラムを公開しました。



バーチャルリアリティシアター
新プログラム「ヨコハマクロニクル」

お客様に快適な見学環境を提供し、資料を良好な状態で保つため、温湿度の定期的な計測とデータ分析を行うとともに、空気清浄機や除湿器などの運用を行い、展示什器他のカビ等の被害を未然に防ぐ取り組みを行いました。

2月のメンテナンス休館期間においては、財団全体で整備作業を実施しました。



職員による館内整備

(2) 特別展示事業

企画展「関東大震災100年 船と港から見た関東大震災」を開催しました。関東大震災から100年の節目の年に、横浜港が受けた被害の実情を明らかにし、横浜港内にいた船舶の救援活動をはじめ救援物資輸送、避難民輸送などに多くの船舶が活躍した事例を紹介しました。また、現在、港がどのような防災に取り組んでいるかについて約280点の資料で紹介しました。

展覧会名	会期
企画展「関東大震災100年 船と港から見た関東大震災」	8月26日～11月5日

(3) 柳原良平アートミュージアム事業

特集展示では、令和5年（2023年）3月の外国船によるクルーズ再開にともない、船旅への関心の高まりが予想されたため、好評だった令和4年（2022年）度実施の特集展示「柳原良平と船の旅」を4月まで延長しました。

令和5年（2023年）3月の柳原良平アートミュージアムのオープン5周年を記念して、4月末から特集展示「花と木と船と」を開催、柳原良平が美しい花や木々を船とともに描いた作品をおよそ20点展示しました。5周年にあわせて初公開した水彩画「山下公園よりQE2」は、令和4年（2022年）度末から継続して10月まで展示しました。



修復後展示した水彩画
「山下公園よりQE2」



「街の中の Ryo.デザイン」
展示風景

10月中旬からは、特集展示「街の中の Ryo.デザイン」を開催、柳原良平が制作した広告デザイン約40点を展示しました。広報や展示資料のご提供など、市内企業や団体のご協力をいただきました。

展覧会名	会期
特集展示「柳原良平と船の旅」	(2022年)10月4日～4月23日 ※会期延長
柳原良平アートミュージアム5周年記念特集展示 「花と木と船と」	4月25日～10月15日
柳原良平アートミュージアム5周年記念特別展示 水彩画「山下公園より QE2」(初公開)	3月20日～10月15日
特集展示「街の中の Ryo.デザイン」	10月17日～(2024年)3月24日

(4) 教育普及事業

教育活動ボランティアによる「船のおりがみ教室」や学芸員によるワンポイント展示解説を再開しました。クイズを楽しみながら博物館の展示を見学する博物館クイズラリーは令和4年(2022年)度から継続実施しました。



学芸員によるワンポイント展示解説

企画展「関東大震災100年 船と港から見た関東大震災」の関連事業では、横浜市民防災センターと連携したクイズラリー、NPO法人横浜シティガイド協会と共催した横浜港周辺の震災遺構をめぐる街歩きツアーのほか、学芸員による展示解説を実施しました。

(5) 所蔵品の適切な管理

博物館の浸水対策として横浜市が大黒ふ頭に設置した収蔵施設を毎月点検するとともに、博物館内収蔵庫、書庫の環境保全及び資料・図書の良い保管のため、定期的な清掃と資料の点検及び再梱包作業等を実施しました。

収蔵庫・書庫の環境保全活動については、燻蒸の実施及びその内容について横浜市と協議しました。職員による定期的な清掃点検と専門業者による環境調査の結果を踏まえ、令和5年(2023年)度は、第2収蔵庫の燻蒸を実施しました。



書庫内の清掃

令和4年(2022年)に実施したクラウドファンディングのプロジェクトでは、帆船日本丸の無線日誌(142冊)等のクリーニング、保存箱の作成及び修復(1冊)等を実施しました。

(6) その他

ア ボランティアへの対応

4月から展示案内、6月から教育活動の一部についてボランティア活動を再開しました。新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、猛暑などを考慮し、様子を見ながら活動しました。

活動再開に伴い、館外研修やリフレッシュ研修を実施しました。



ボランティア研修

イ 助成金の獲得ほか

令和6年(2024年)度の企画展の事業助成を受けるため、みなとの博物館ネットワーク・フォーラム等2件の助成申請を行いました。令和5年(2023年)末から博物館内に募金箱を設置し、来館されたお客様に博物館活動へのご協力をお願いしました。

ウ 横浜みなと博物館ニュースの発行

横浜みなと博物館の活動や所蔵資料に関する記事を掲載した「横浜みなと博物館ニュース」を発行しました。

令和4年(2022年)度の博物館の活動紹介、令和5年(2023年)度の展覧会や特集展示の開催予定をPRしました。

エ 災害への対策

お客様と職員、所蔵資料・図書の安全を守るため、一部の書棚等に落下防止ベルトの取り付けや棚の固定を行いました。キャビネットや引き出しについては、地震の際に物品等が飛び出ないように、使用後の施錠を徹底する注意喚起表示を取り付けました。水害対策については、収蔵庫内で保管する一部資料をより高い場所へ移動する取り組みを進めました。



落下防止ベルト装着



施錠の注意喚起表示

4 みなとの賑わい創出事業

パーク内の賑わい創出や魅力向上を一層推進するため、パーク利用者への利便性の維持・向上に努めるとともに、都心部における貴重な水辺や緑地空間を最大限活用し、マリンスポーツの普及・啓発に資するシーカヤックやカヌーポロなどの教室の開催、さらにはパーク広場でのイベントなどの利用促進等に取り組みました。

(1) 利用者への利便性向上

帆船日本丸及び横浜みなと博物館を訪れるインバウンド旅行者の利用も視野に入れながら、利用者の利便性向上を図るため、令和4年（2022年）度から各券売窓口でクレジットカードや電子マネーの利用が可能なレジシステムを導入し、入館料のキャッシュレス化を実現しています。

令和5年（2023年）度も、増加するインバウンド旅行者などの来館者への利便性向上を維持し、キャッシュレス化を推進しました。

(2) 水辺の事業

都心のインナーハーバーに立地する好条件を生かした、水辺に親しむ体験型事業を実施し、みなとの賑わい創出に貢献しました。

シーカヤック教室では、日本丸メモリアルパークの内水域及び自動車側水域を中心に、NPO法人横浜シーフレンズと連携し、教室を開催しました（計54回開催、延べ444人参加）。



シーカヤック教室



カヌーポロ教室

カヌーポロ教室では、横浜市カヌー協会及びNPO法人横浜カヌー倶楽部と連携し、大人から子どもまで広い世代で参加できるように、上達レベルを合せて教室を開催しました（計14回開催、延べ63人参加）。

(3) パーク利用事業（イベント）

市民交流やコンサートをはじめとする音楽イベントなどが開催されました（計83件）。夏にはポケモンワールドチャンピオンシップスに関連したポケジェニック（フォトスポット）の装飾がパーク内各所で展開されたほか、秋にはプリキュアパレードが実施されるなど、パーク内は多くの来場者で賑わいました。



ポケジェニックの一つ
(博物館に施されたステンドグラス)



全プリキュアパレード

リピーターによるイベント「アロハフラ」では、フラダンスチームが多数出演しました。冬には「ハーレーダビッドソン 2024年モデル撮影・メディア試乗会」の拠点として初めて利用していただきました。



「アロハフラ」フラダンスイベント



「ハーレーダビッドソン2024年モデル撮影・メディア試乗会」

(4) ミュージアム・ショップ事業

港への理解や横浜港の役割に関する学びをより深める書籍や展覧会図録、帆船日本丸、横浜みなと博物館及び柳原良平アートミュージアムにお越しいただいたお客様の思い出を深めるオリジナルグッズなどを販売しました。



企業コラボ商品
「日本丸アクリルミラーチャーム」



関東大震災企画展関連グッズ
「アートワレ(壁掛け緊急時用トイレ処理セット)」

時間や場所を選ばずにお買い物を楽しんでいただけるよう、オンラインショップを運営しました。

オンラインショップ



5 緑地管理・活用及び研修施設事業

市民や来街者の憩いの場となるよう、緑あふれる緑地を形成し、都心のオアシスとして緑地景観の維持とともに、快適な空間形成の創出に努めました。

研修施設（訓練センター）等を最大限に活用し、企業の会議の場として、イベント・撮影等の控室として、様々な用途に対応しながら、利用促進に取り組みました。

(1) 緑地の維持管理・活用

ア 安全管理

市民をはじめ様々な来場者がパークを安全かつ快適にご利用いただけるよう、施設を常時点検し、破損箇所については速やかな補修や修繕等を実施しました。

パーク内の高木については、枯枝が来場者に落下する危険性を防止するため高所作業車などを利用し、枝下ろしを行いました。訓練センターでは、経年劣化および熱衝撃と思われるガラスのヒビ割れが発生したことから、ガラス交換を実施しました。緑地のタイル舗装部分について、老朽化によるブロック・タイルの浮き・割れが発生し、来場者がつまずき転倒する事故を未然に防止するため補修を行いました。



ワシントンヤシの枝下ろし



緑地：ブロックハガレ



訓練センター：ガラス修理

イ 環境管理

パーク内の緑地景観を維持し、来場者の憩いの空間となるよう、植栽等を適切に管理しました。快適に見学していただくため、季節に応じた花壇を配置したほか、グリーンボランティアの協力による雑草処理を実施しました。

なお、緑地内で発生したネズミによる砂利の掻き出しへの対策も実施しました。



グリーンボランティアの活動風景



まちかど花壇



大岡川プロムナード花壇



横浜市限定品種チューリップ
「ラバーズタウン」

ウ 撮影

緑地や帆船日本丸をはじめとして、パーク内の魅力的な空間や様々な施設、設備を利用し、テレビドラマ・映画・CM・雑誌などの撮影が行われました（192件）。



撮影風景

(2) 研修施設（訓練センター）の管理運営

新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことを契機として、それまで制限していた訓練センター各会議室の収容定員を令和2年（2020年）度以前の規定人数に戻しました。同様に、貸出時間帯の枠制限も解除しました。

新たな取り組みとしては、10月1日からプレゼンテーションルームの予約システムを新規導入したほか、利用者の利便性向上のため利用時間枠ごとに一定の間隔を設け、会議の準備作業に対応できるようにしました。これにより、一日に複数の利用者が申し込みやすくなりました。

こうした改善により、会議室、プレゼンテーションルームの利用料の収入実績が、前年度比19%増になりました。



プレゼンテーションルーム

6 集客増に向けた重点取組

法人マーケット・個人マーケットともに動きが活発化した年となり、教育旅行団体及び個人の入館者数は前年度実績を超えました。外国人客は3倍となり、多言語対応を強化しました。新規プログラムの発信のほか、複数のメディアを活用した広告宣伝を実施し、地域連携による賑わいの創出に大きく貢献しました。

(1) 法人マーケット（教育旅行及び企業・団体等法人）への取組

ア 教育旅行マーケット

＜旅行会社への教育旅行部門への営業を推進＞

- ・豊島区立中学校8校連合行事「横浜 海の学習」の受入れ(3年連続)
- ・教育旅行プログラム「みなとの学校」をJTB横浜支店と共同開発・販売開始
- ・水をテーマにしたSDGs学習プログラムをヨコハマSDGsデザインセンターと共同開発
- ・日本修学旅行協会発行「月刊教育旅行」への広告掲載、情報発信(12回)



SDGs学習プログラム「テーマ：水」
(月刊教育旅行掲載)

イ 企業・団体等法人マーケット

＜多種多様な法人のニーズへの迅速、的確、柔軟な対応を推進＞

- ・リーダーシップ体験プログラム（日本丸を利用した企業・団体向け人財育成・教育プログラム）をJTBコミュニケーションデザインと共同開発・販売開始
- ・JTB団体用旅行商品「JTBならではの」の1プランとして参画（150人利用）
- ・近畿日本ツーリスト扱の金融機関向けセミナーの受注
- ・横浜観光コンベンションビューロー（以下：YCVB）への情報提供、各種媒体へ情報発信
- ・MICE※誘致営業を推進。パシフィコ横浜開催「光・フォトンクス国際会議2023」、「ポケモンワールドチャンピオンシップス2023」等での誘客宣伝実施

※MICE: Meeting (会議・研修・セミナー)、Incentive tour (報奨・招待旅行)、Convention または Conference (大会・学会・国際会議)、Exhibition (展示会)の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一つの形態

(2) 個人マーケットへの取組

ア 旅行会社・チケット販売会社等の商品プランへの参画

- ・YCVB「ハマ旅キャンペーン」(コロナ対応旅行支援助成)(278人利用)
- ・入館料団体割引適用契約を継続(6法人)。横浜市勤労者福祉共済(はまフレンド)、ぐるっとパス(美術館・博物館共通入館券)は開始以来最高額の販売付加収入を計上
- ・シーカヤック体験・柳原良平6作品を返礼品とする横浜市ふるさと納税にエントリー

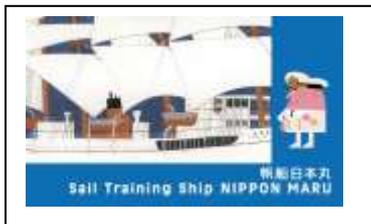
イ 個人需要拡大のための新規コンテンツ制作

- ・「帆船日本丸・横浜みなと博物館体験型リアル宝探し（謎解き）」のキット制作を完了（令和6年4月26日から販売開始）

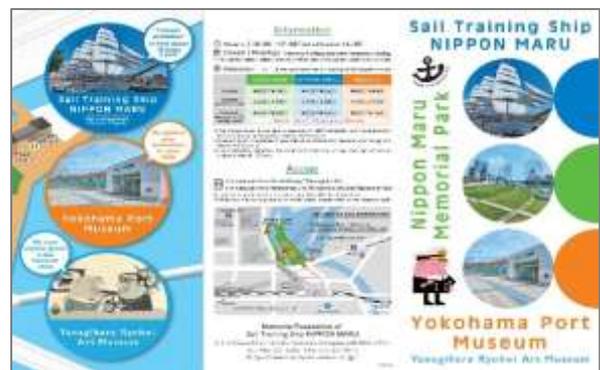


ウ 外国人（訪日・在日）誘客拡大

- ・外国人有料入館者数が直近8年間で最高（8,149人）
- ・英語版リーフレット及び多言語対応用カード（QR Translator）の提供
- ・クルーズフレンドリープログラム（横浜市外国人誘致PR）参照
- ・アソビュー社（E-ticket販売）海外販売先エージェントでの取扱開始



多言語対応用カード



英語版リーフレット

(3) 広報・宣伝への取組ープロモーションを主体とした取組

新聞社・TV・ラジオ等、メディア取材対応を行いました。

広告宣伝出稿件数は291件、Instagramフォロワー数は1,360人を達成するなど、積極的に取り組みました。

- ・【特集展示「花と木と船と」】：大型ポスター掲出
- ・【企画展「関東大震災100年 船と港から見た関東大震災」】：デジタルサイネージ（桜木町駅・市庁舎）、ディスプレイ広告（Yahoo!）、入館特典特別プラン販売（E-ticket3社）、横浜市防災センターとの共催「防災フェア」イベント告知・入館割引
- ・【特集展示「街の中のRyo.デザイン」】：商工季報10月号掲載、ディスプレイ広告（Yahoo!、Google）、ありあけハーバースタジオ「myハーバー体験チケット」プレゼント実施
- ・d47museum（渋谷ヒカリエ）で柳原グッズの出展販売、「d design travel KANAGAWA（観光ガイド）」への掲載
- ・「かながわサイエンスサマー」広告掲載（夏休みイベント告知）



デジタルサイネージ(桜木町駅)

(4) 地域連携による賑わいの創出

関係機関や近隣施設等との連携・協力による当館を含めた地域情報の発信、映画・ドラマ・CM等のロケ地として利用されている日本丸メモリアルパークのコンテンツを活用したロケツーリズムの取組等を進めました。

- ・特集展示「花と木と船と」の期間中、横浜ロイヤルパークホテル及びムサ・ジャパン（生花店）と連携し、ロスフラワー（生花の再利用）装飾を実施
- ・特集展示「街の中の Ryo. デザイン」連動企画
 - ①ロイヤルパークホテルズ「THE Club 会員」向け入館特典
 - ②もとまちユニオン元町店(京急ストアグループ)のボージョレヌーボーキャンペーン協力
 - ③ありあけハーバースタジオ(横浜ハンマーヘッド)「myハーバー体験チケット」企画
- ・そごう横浜店福袋企画（親子向け日本丸ツアー&体験）参加
- ・ニューオータニイン横浜プレミアムで入館券付き宿泊プランを販売
- ・横浜みなとみらい21が進めるアート&ミュージアム構想に参画し、みなとみらいエリアのミュージアムマップを作成・配布
- ・「かえるのピクルススタンプラリー」(YCVB)への協力
- ・映画「TOKYO MER」のプロモーションに協力（TOKYO MERステッカー配布）



特集展示「花と木と船と」
ロスフラワー装飾



特集展示「街の中の Ryo. デザイン」
「myハーバー体験チケット」企画

7 組織運営の質的向上に向けた取組

日本丸メモリアルパークを訪れる全てのお客様に満足していただけるよう使命感を持って業務に取り組むとともに、職員が働き甲斐のある職場づくりを進めました。

(1) 風通しの良い職場作り

日々の朝礼で情報共有を徹底することにより円滑に業務を進めました。管理職による定例会議を実施し、経営方針及び懸案事項の検討を行うとともに、職員ミーティングでの説明・共有を行いました。

その他、安全衛生委員会では、職場でのヒヤリハットの事例を共有することによる労働災害の発生防止や、職員の健康保持増進に向けた取組を進めました。

(2) 研修の実施

人権啓発研修、情報セキュリティ・個人情報保護研修等を実施しました。

(3) コンプライアンスの遵守

朝礼を始めとして、日頃から様々な機会を捉えてコンプライアンス意識の向上を図りました。コンプライアンス委員会では、横浜市業務監察の結果について共有したほか、関連情報の確認と内部監察を実施しました。

(4) 人事考課の実施

職員の意欲と能力を最大限に引き出し、チャレンジする人材を育成することを目的として人事考課を実施しました。この制度を通して上司と部下が目標を共有することにより、着実な財団運営を進めました。努力する職員を適切に評価することで、職員のモチベーションアップを図りました。

(5) アンケート調査（モニタリング）の実施

オンラインによる非接触型の回答方法により、10月21日から1月28日まで実施し、108件の回答を得ました。調査結果の主な内容は次のとおりです。

ア 来場回数

初めて来場した方は、帆船日本丸では56.1%、横浜みなと博物館では51.0%であり、昨年度より増加しました。また来たいと答えていただいたお客様は、日本丸では98.9%、横浜みなと博物館は94.9%でした。

イ スタッフの対応

大変満足、満足と回答していただいた方の割合は、帆船日本丸では95.7%、横浜みなと博物館では92.7%と、どちらも高い評価をいただきました。

ウ 総合的な満足度

帆船日本丸では98.8%、横浜みなと博物館では89.7%でした。

いずれの施設にも満足いただけなかった方は108名中1人（0.9%）でしたので、総合的には99.1%の方に満足していただけたと考えています。

引き続き、来場者に気持ちよく利用していただくために、おもてなしの心で常に改善を行い、お客様満足度の向上に努めていきます。

8 令和5年(2023年)度事業一覧表

【帆船日本丸事業】	
帆船日本丸公開	船内を年間284日一般公開、公開日は次の日を除く毎日 ・月曜日 (祝日に当たる時は公開、翌日が休館日) ・年末年始 (12月29日～1月3日) ・船体整備 (1月29日～2月26日)
展帆(12回) 延べ911人のボランティアが参加	5月20日(土)、5月28日(日)、6月11日(日)、7月2日(日)、 8月27日(日)、9月10日(日)、9月23日(土・秋分の日)、 10月9日(月・スポーツの日)、10月15日(日)、10月22日(日)、 11月3日(金・文化の日)、11月19日(日) ※9月23日、10月22日、11月3日、11月19日は総帆展帆 その他は部分展帆。 ※5月20日は展帆を追加して実施
満船飾(13回) 国民の祝日等に実施	4月29日(昭和の日)、5月3日(憲法記念日)、5月4日(みどりの日)、 5月5日(こどもの日)、7月17日(海の日)、8月11日(山の日)、 9月15日(重要文化財指定記念日)、9月18日(敬老の日)、9月23日(秋分の日)、 11月3日(文化の日)、11月23日(勤労感謝の日)、1月8日(成人の日)、 1月27日(日本丸進水記念日)、 ※6月2日(開港記念日)、10月9日(スポーツの日)、3月20日(春分の日) は雨天のため実施せず。 ※2月11日(建国記念日)、2月23日(天皇誕生日)は船体整備期間のため実施せず。
海洋教室	<半日・1日・宿泊コース> 合計12回(参加者551人) ・半日コース:実施なし ・1日コース:5月11日(64人)、5月31日(60人)、6月1日(60人)、 6月18日(11人) ・宿泊コース:4月4日～5日(34人)、6月7日～8日(53人)、 6月22日～23日(69人)、8月1日～2日(45人)、 8月5日～6日(44人)、8月19日～20日(28人)、 8月24日～25日(29人)、9月14日～15日(54人) <親子展帆・ロープ教室・出張海洋教室> 合計11回(参加者472人) ・親子展帆:5月3日(32人・53人)、5月4日(76人・62人)、 5月5日(70人・60人)、7月17日(35人) ※5月3～5日は1日2回実施 ・ロープ教室:7月28日(2人)、7月30日(8人) ・出張海洋教室:11月5日西区民まつり(74人)
教育普及事業	実施回数3回(参加者40人) ・子ども向け船の講座『船はどうして進むのだろうか』7月30日(14人) ・『帆船日本丸の大舵輪をまわしてみよう』11月12日(15人) ・大人向け船の講座『日本丸の帆(セイル)を畳んでみよう』 1月27日(11人)
総帆展帆協力者登録数	登録されている市民ボランティア2,351人 ※新規展帆ボランティア養成訓練(計20人参加): 4月期・10月期に各1回実施(4課程)
日本丸船内ガイド登録数	登録されている市民ボランティア45人
甲板清掃ボランティア等	真ちゅう磨きなどの整備作業を実施(作業日119日、延べ728人)
その他	墜落制止用器具取扱研修 ・座学3回、実技6回実施(9人参加)

【横浜みなと博物館事業】	
常設展示事業	年間305日一般公開、公開日は次の日を除く毎日 ・月曜日（祝日に当たる時は公開、翌日が休館日） ・年末年始（12月29日～1月3日） ・1月29日～2月6日（燻蒸及び館内整備） ※展示案内ボランティア(27人)による常設展示の説明を4月11日から一部再開
特別展示事業	1 企画展「関東大震災100年 船と港から見た関東大震災」 会期：令和5年8月26日（土）～11月5日（日）(8,732人) ・報道機関向けの内覧会（8月25日、4社4名参加） ・よこはま防災クイズラリー（8月26日～11月5日、59人参加） ※横浜市民防災センターとの連携事業 ・学芸員による展示解説（9月10日、10月22日、11月5日、119人参加） ※各日午前午後(計6回)実施 ・なるほど！ミナト散歩「横浜港周辺の震災遺構をめぐる」 （10月15日、10月21日、10月5日 47人参加） ※共催：NPO法人横浜シティガイド協会 2 新着資料展示 ・7月11日～11月12日 (31,127人) ・11月14日～3月31日 (25,047人)
柳原良平アートミュージアム事業	1 特集展示「柳原良平と船の旅」※会期延長 会期 10月4日～4月23日 3,125人（4月1日～23日まで） 2 柳原良平アートミュージアム5周年記念特集展示 「花と木と船と」 会期：4月25日～10月15日（37,497人） ※特集展示解説5月4日（みどりの日）29人 3 特集展示「街の中の Ryo. デザイン」 会期：10月17日～3月24日（34,662人） 4 柳原良平アートミュージアム5周年記念特別展示 水彩画「山下公園よりQE2」 会期：3月20日～10月15日 40,622人（4月1日～10月15日）
教育普及事業	1 博物館クイズラリー（118回、2,934人） 土曜日、日曜日、祝日実施 2 楽しい船のおりがみ教室（66回、745人） 土曜日実施（6月～） ※トライアル実施（5月1日、2日）、 教育活動ボランティアにより実施 3 学芸員のワンポイント展示解説（37人） 7月15日、9月16日、11月18日、1月27日、3月9日 4 船のペーパークラフト教室 中止
調査・研究・収集・出版活動事業	1 資料調査・研究等事業 横浜港を中心とした資料の調査、研究、収集、整理、 保存を行い、その成果を公開及び展示・教育活動に反映 ・資料整理のデータベース化を推進 ・寄贈2,099点、購入9点、採集1,523点 ・環境調査実施「常設展示室、収蔵庫・書庫」（9月21日） ・第2収蔵庫燻蒸（1月29日～2月3日） ・港内撮影、初入港客船・帆船等の撮影 50回

	<p>2 出版活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「関東大震災100年 船と港から見た関東大震災」展示図録 ・横浜みなと博物館ニュースNo.1 発行 4月1日(4,500部) <ul style="list-style-type: none"> ・A4判2つ折1枚(4ページ) フルカラー ・令和5年4月1日発行 ・図書館(市内・近隣)、近隣施設、市内県内博物館、東京・関東博物館などに送付(200か所) <p>3 資料貸出・レファレンスサービス等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料(画像)貸出:株式会社NHKエデュケーショナル、公益財団法人ポーラ美術振興財団ポーラ美術館など、24件44点 ・資料特別利用:公益財団法人茅ヶ崎市文化・スポーツ振興財団 24点(閲覧) ・資料貸出:利用なし
ライブラリー事業	<p>横浜港や船、海に関する図書・逐次刊行物等を収集・整理・公開し、小学生から専門家に学習・研究の場を提供。データベース化の蔵書情報はWebサイトで公開</p> <p>1 利用方法(料金等)</p> <p>博物館の入館者の利用は無料。ライブラリーのみ利用は1人100円。コピーサービス(有料)のほか、レファレンスサービスを実施</p> <p>2 収集・整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜港、港運、海運、船舶、航海等に関する図書、逐次刊行物等を収集 (購入14冊・寄贈143冊・その他215冊) ・図書のデータベース化(25,849冊)及び保守点検 ・データベース修正作業実施
施設外部貸出	<p>1 特別展示室 株式会社スタジオグラフィックス 1件</p> <p>2 常設展示室1階展示スペース 関東海事広報協会、個人 計2件</p>
その他	<p>1 視察対応(2件)</p> <p>2 大黒収蔵施設内資料の点検作業(13回)</p> <p>3 出張講演、シンポジウム登壇(オンライン含む)、執筆等(22件)</p> <p>4 博物館ボランティア館外研修 11月15日(29人)</p> <p>5 ボランティアリフレッシュ研修 3月7日~10日(28人)</p> <p>6 令和6年度企画展助成申請(2件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みなとの博物館ネットワーク・フォーラム ・一般財団法人山縣記念財団 <p>7 職場体験学習受け入れ(2件)</p> <p>8 クラウドファンディング(令和4年実施)関連事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無線日誌クリーニング 4月~9月(142冊分) ・クリーニングレクチャー 4月14日 ・無線日誌修復状況見学及び調査等 5回 ・無線日誌保存箱等納品(10月3日、4日) ・修復した無線日誌1冊納品(10月20日) ・修復無線日誌見学他(返礼事業)12月7日実施 1名参加 <p>9 災害対策</p> <p>書棚等:落下防止ベルト装着(53か所)、固定(1か所)</p> <p>収蔵庫内資料の高所への移動(117点)</p>

【みなとの賑わい創出事業】	
水辺の事業	1 シーカヤック教室 ・通年開催 54回（444人） 2 カヌーポロ教室 ・4月～10月 14回（63人）
パーク利用事業	1 音楽イベント（貸出） ・スティールパンフェスタ ・真夏のアイドル SPLASH 祭り ・横濱 JAZZPROMENADE 街角ライブ 等 2 ダンスイベント（貸出） ・アロハフラ ・横浜ダンスフェスティバル 等 3 横浜みなとみらい21関係イベント ・自動車道における生物調査（アマモ観察）
ミュージアム・ショップ事業	港への学びを深める書籍、展覧会図録、来館者の思い出に残るオリジナルグッズの販売とオンラインショップの運営 ○主な新規取扱商品 1 企業コラボ商品 ・日本丸アクリルミラーチャーム ・カレーボウル（皿） ・国際信号旗洗濯ネット 2 企画展「関東大震災」関連グッズ ・＜柳原良平デザイン＞アートトワレ（壁掛けトイレ処理セット） ・ふねのかんばん（乾パン） 3 特集展示「街の中の Ryo. デザイン」関連グッズ ・＜柳原良平デザイン＞横濱バーム（ハンドクリーム） ・＜柳原良平デザイン＞横濱ハーバー ・＜柳原良平デザイン＞みなと横浜金箔入り七福茶 4 書籍 ・横浜港 埋立と築港の技術と歴史
【緑地管理・活用及び研修施設事業】	
緑地の維持管理・活用	パーク来場者の快適な利用に向けた安全管理と緑地景観の維持 1 緑地 歩道ブロック等の維持補修、季節に応じた植栽管理 2 撮影 TVドラマ、映画、CM、雑誌等（192件）
グリーンボランティア	登録されているボランティア12人が年間を通じて活動 1 主な活動内容 ・カラスやトンビなどからの危害防止及び害虫駆除 ・花壇・プランターの植栽手入れ ・横浜みなと博物館屋上芝生の手入れ 2 その他の活動 ・水域を含むパーク内及び周辺歩道の清掃 ・さくら通り「まちかど花壇」緑花維持管理作業
研修施設の管理運営 （訓練センター、プレゼンテーションルーム）	1 貸出期間（次の日を除く毎日） ・月曜日（祝日に当たる時は公開、翌日が休館日） ・年末年始（12月29日～1月3日） ・1月30日、31日 ※設備点検による貸出不可日あり

	<ul style="list-style-type: none"> 2 会議室の収容定員及び貸出時間帯の制限を解除 3 予約システムWebサイトの改良 4 貸出時間帯の改善に伴う利用料金の改定 5 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の継続 <ul style="list-style-type: none"> ・アルコール消毒液、サーキュレーター等の設置 ・マイク等機材の消毒の徹底 6 マイクシステムの改良
【集客増に向けた重点取組】	
法人マーケット	<ul style="list-style-type: none"> 1 教育旅行マーケット 来校実績550校（前年比50校増） <ul style="list-style-type: none"> ・豊島区立中学校8校連合行事の受入れ【継続】 8校・延べ983人 ・教育プログラム「みなとの学校 In YOKOHAMA」販売（JTB横浜支店との協働） ・SDGsプログラムの制作 ・『月刊教育旅行』への広告掲載（修学旅行誘致） 2 企業・団体等法人マーケット <ul style="list-style-type: none"> ・「JTBならではの(団体旅行商品)」プラン参画(150人) ・「金融機関向けセミナー(学芸員解説付きプラン)」(30人) ・MICEマーケット(ユニークメニューの取組検討)
個人マーケット	<ul style="list-style-type: none"> 1 オンライン販売(E-ticket) <ul style="list-style-type: none"> ・販売実績 2,024枚(3社合計) ・海外旅行オンライン予約販売開始(アソビュー社) 2 リアル販売 <ul style="list-style-type: none"> ・ぐるっとパス 販売枚数33枚 利用者数2,633人 ・旅行社(ポケットカルチャー、YDMS、JTB)の企画商品への参画(3社合計の利用者数393人) 3 外国人マーケット(直近8年で最高実績) <ul style="list-style-type: none"> ・多言語対応用カードや英語版リーフレットを整備 ・有料入館者数 8,149人(前年比 320.1%増) ・対有料入館者シェア 9.3% 4 新規マーケット開拓 <ul style="list-style-type: none"> ・地域連携による情報発信及び新規需要掘り起し ・みなとみらいアート&ミュージアム構想への参画 ・リアル宝探し(謎解き)コンテンツ制作 (令和6年4月26日から販売)
広報・宣伝	<p>企画展、特集展示を中心とした、多彩な広報宣伝・プロモーション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間広告宣伝出稿実績291件(前年比70件増) ・Instagram活用(フォロワー数1,360人) ・新聞社、TV、ラジオ局等、各メディアへの情報発信 ・デジタルサイネージ ・web(Yahoo!, google)ディスプレイ広告 ・観光情報サイト、地域誌への掲載 横浜観光情報、MinatoMirai21、ヨコハマ経済新聞、タウンニュース、るるぶ横浜等 ・近隣企業との連携企画 横浜ロイヤルパークホテル ありあけハーバースタジオ そごう横浜店など

【組織運営の質的向上に向けた取組】

各種研修の実施状況

主催：【財】は財団、【他】は他団体

月日	研修名	人数	主催
4月1日	新採用職員研修	4人	【財】
4月8日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育(学科)	5人	【財】
4月 8日9日 16日23日	新規展帆ボランティア養成訓練	8人	【財】
4月14日	資料クリーニングレクチャー	10人	【財】
4月18日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育(学科・実技)	1人	【財】
4月22日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育(実技)	3人	【財】
5月 20日21日 30日31日	VR及び大型映像新プログラム財団スタッフ向け視聴会 (8回実施)	34人	【財】
6月6日	横浜みなと塾	2人	【他】
6月21日	神奈川県博物館協会研修 新しい地域博物館のかたち — 『『大地と人のものがたり』をテーマとしてオープンした 『茅ヶ崎市博物館』の見学と解説』	1人	【他】
7月3日	ユニバーサルツーリズムセミナー	1人	【他】
6月 14日18日 7月 5日7日	博物館展示案内ボランティア研修	22人	【財】
8月3日	公益法人における消費税インボイス制度セミナー	1人	【他】
9月 3日30日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育(学科)	4人	【財】
9月 9日17日 27日 10月 1日19日	展帆ボランティア墜落制止用器具特別教育(実技)	6人	【財】
9月30日 10月 1日7日 8日	新規展帆ボランティア養成訓練	12人	【財】
11月 11日18日	救急救命講習	2人	【他】
11月15日	博物館ボランティア館外研修(根岸製油所)	29人	【財】
12月15日	ファンドレイジング説明会	1人	【他】
12月19日	令和5年度文化財(美工品)保存修理講習会	1人	【他】
12月20日	令和5年度文化をつなぐミュージアム研修	1人	【他】
2月27日	神奈川県博物館協会防災研修会	1人	【他】
2月 21日28日 3月6日	人権啓発研修	52人	【財】
3月4日	MM21合同防災訓練	1人	【他】
3月 7日8日 9日10日	博物館ボランティア リフレッシュ研修	28人	【財】
3月13日	止水板設置訓練	20人	【財】
3月22日	情報セキュリティ・個人情報保護研修コンプライアンス研修	30人	【財】